

那覇・福州友好都市交流シンボルづくり事業住民監査請求意見陳述

金城 照子

本日、貴委員会が意見陳述の場を与えて下さった事に感謝を申し上げます。私は、那覇市民の代表として去った 10 月 16 日に那覇・福州友好都市シンボルづくり事業により建設された龍柱の速やかな撤去と不当に支出された市民の血税 1 億 7,000 万円の弁済をこの事態を招いた前市長と現職市長に求めました。

提出した住民監査請求書では、建設場所が観光等で来県される人々からすれば、那覇市の玄関口であり、同時に沖縄県の玄関口であるにも関わらず、爪の本数によって位が決められている（1988 年 9 月、西村貞雄琉大教授「龍柱について」の論文）龍の柱を市民や県民から意見を求める事も、理解を得るように周知する事もせず、むしろ隠すかのようにこの事業が進められて来た実態を指摘致しました。

中国が南沙諸島や西沙諸島で人工島をつくっていること、沖縄県である尖閣諸島の領空領海を頻繁に侵犯している事も、そして沖縄が自国の領土であることを主張していることも、広く国民の知ることとなっています。

更に、この事業は度重なる計画の変更、工事完了時期の変更、予算の増額などこの事業計画が如何にずさんで、市民に対し不誠実であったかを明らかに致しました。

今回は、住民監査請求書の末尾で指摘した倒壊の恐れすらある龍柱の危険性について意見を述べる事と致します。

現在、国民を不安に落とし込んだ事件があります。それは、横浜のマンションが傾いてしまったという事件です。

これは、杭打ち工事を請け負った旭化成建材が、70 本余りの鋼管杭の内数本を強固な岩盤まで到達させないまま、虚偽データを使って基礎のくい打ちをしってしまった事件です。この傾いたマンションの工事は、平成 17 年（2005 年）年 12 月から平成 18 年（2006 年）年 2 月に実施されたものですので、わずか 10 年も経たずに傾いた事になります。

ところが、今回建設された龍柱は、当初の計画では支持杭を標高 - 55 m の強固な支持層（島尻層）まで打ち込むように計画し、予算を組んでいました。

しかし、市当局は主に経済的理由で 25 m の摩擦杭に変更して、これで十分な支持力を得られたと回答していますが、その根拠は明確に示されていません。

ここで重要なことは、支持杭 8 本（阿吽合わせて 16 本）の内 1 本も強固な支持層に到達していないということです。

むしろ、若狭地域の過去のボーリング調査や今回の工事に伴ったボーリング調査では、支持力が安定した層は僅かで、その層の上下に支持力の弱い緩い層があることも或いは支持力が 0 に近い箇所（空洞など）すらあることも判明しています。

過去に琉球石灰岩を支持層にしようとする論文①も出てはいますが、確証となる実験データも調査結果も未だに出ていません。

また、阿形（あぎょう）吽形（うぎょう）のそれぞれのボーリング結果には地質的に大きな違いがあるのにも関わらず、摩擦杭の深度が共に標高 - 25 m であることも示された論拠に整合性が無く理解し難いことです。

ですから、この問題は、計画と事前調査、予算の立て方にそもそもの原因があったことは明確です。

よって若狭海浜公園が市民の緊急避難場所となっていることから、倒壊の危険性のある龍柱は早急に撤去するように貴委員会が市長局に勧告されることを要望致します。

* 泊大橋は、1986 年 4 月 11 日に開通しています。

波之上橋（波之上宮の前）は 1981 年に開通していますが、共に島尻層を支持層としており、鋼管杭を標高 - 50 m まで打ち込んでいます。

今から 30 年も前に可能であった工事が、この間技術力が向上したことから、龍柱の基礎杭を 55 m にすることを不可能とする何物も無いと思われまます。* 論文①では、周面摩擦力については、N 値による設計では、Ls-1 層（- 15 m 上下 3 m 幅）の岩塊部を過大に評価している可能性が考えられる：と書かれている。この地域はずっと以前に人工的に埋め立てられた事により事かもしれない。